第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

セトウチサンショウウオ

Hynobius setouchi Matsui, Okawa, Tanabe et Misawa, 2019

田辺真吾（日本爬虫両棲類学会）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：田辺真吾・松井正文，2026．セトウチサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 561-566．

Citation: Tanabe, S. and M. Matsui, 2026. *Hynobius setouchi* Matsui, Okawa, Tanabe et Misawa, 2019. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 561-566.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

セトウチサンショウウオ

***Hynobius setouchi* Matsui, Okawa, Tanabe et Misawa, 2019**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B1ab

基準 A:　—	基準 B:　VU	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B1．出現範囲が 20000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。
【過度に分断】
生息地の多くが開発等の影響を受けて寸断され、まとまった面積の生息地が減少している。残存する集団も道路工事や宅地造成、圃場整備等により容易に絶滅する恐れがある。
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
多くの生息地で乾燥化や微環境の変化が認められる。近年消失した生息地がある。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は近畿地方西南部から山陽、四国地方東部固有の止水産卵型の小型サンショウウオである。2019 年にカスミサンショウウオから分けられた。各地で生息地の開発が進んで激減しており、地域個体群が絶滅した例もある。

基礎情報

【形態】

体は小型（全長 72～127 mm、平均 92 mm）、四肢は比較的長く、ほとんど常に第 5 趾をもつ。尾は長く、上下縁には通常黄色の条線を欠く。卵嚢外被には条線がない。トウキョウサンショウウオ及びヤマトサンショウウオのなす系統と単系統群をなす。ヤマトサンショウウオより鋤骨歯列が大きく、サンインサンショウウオより頭胴長が小さく、胴と鋤骨歯列が長く、肋皺の数が多く、頭が短い。

【生活史】

瀬戸内海東部の沿岸地域の本州（京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県）、四国地方東部（徳島県、香川県）に分布し、丘陵地から低山地で生活する。本州ではヒバサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、マホロバサンショウウオ、チュウゴクブチサンショウウオと、四国ではイシヅチサンショウウオと垂直的にすみ分けている。

【生息環境】

一般には低地から丘陵地の湧水や、水田と隣接した二次林、竹林、草地に生息するが、四国では低山地の流れの緩やかな谷沿いにも生息する。産卵や幼生の成長に必要な比較的浅い止水環境や緩やかな流水環境と変態後の個体が生息する林が連続して存在する必要がある。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部】森林，草地，田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原，農業用水路，ため池・池沼
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域，（7）島嶼地域

【分布域】

これまで近畿地方西部（京都府、大阪府、和歌山県、兵庫県）、中国地方東部（岡山県、広島県）、四国東部（香川県、徳島県）、淡路島から知られる。京都府や大阪府ではヤマトサンショウウオと、広島県尾道市ではアキサンショウウオと側所的に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

多くの産地は市街地や山地によって著しく分断され、すでに絶滅した地点が多い。現在の生息状況はほとんどの地点で不明である。

【生息地の現況】

生息に必要な水の枯れない止水環境と、それに隣接した森林、草地などの陸上環境という条件は、都市近郊では丘陵地に集中しているが、その様な場所では近年もっとも開発が進んでいる。京都府では条例で保護対象となっているが、分布の東限に位置する生息地が開発により完全に消失した。今後も生息地が道路工事や宅地造成のために削られたり、埋

められたり、圃場整備によって水が出なくなったりすることにより容易に絶滅する恐れがある。

【個体数の現況】

個体数は不明だが、絶滅地点が多いことから近年急速に個体数も減少していることは間違いない。生息密度は季節的、年次的ともに不明であるが、ある環境条件の良好な個体群では 0.36 成体/m^2という値が得られている。

存続を脅かす要因

大規模な土地開発による生息地の消失と、それにともなう汚水の流入などの水質悪化、減反による水田の乾燥化が最大の脅威となってきた。愛好者等による採集も頻繁に行われている。アライグマやアメリカザリガニの他、地域によっては外来の捕食性魚類も本種の生存を脅かしている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，交通事故，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移，近交弱勢
	（現在）	森林伐採，湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，交通事故，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移，発電施設建設，近交弱勢

特記事項

種分化の実態を解明するうえで、各地の個体群がそれぞれ重要性をもっている。比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義カスミサンショウウオ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	セトウチサンショウウオ	*Hynobius setouchi*	VU
第４次 2019：	—	—	—
第４次 2018：	—	—	—
第４次 2017：	—	—	—
第４次 2015：	—	—	—
第４次：	—	—	—
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【京都府】絶滅寸前種，【兵庫県】B ランク，【和歌山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類，【広島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【香川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種，都道府県条例指定種【京都府】

参考文献

- 松井正文，2000．京都・大阪地域のカスミサンショウウオ．環境庁（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-（爬虫類・両生類），pp. 104‐105．財団法人自然環境研究センター，東京．
- 松井正文，2000．愛知県のトウキョウサンショウウオ．環境庁（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-（爬虫類・両生類），pp. 108‐109．財団法人自然環境研究センター，東京．
- 松井正文，2010．カスミサンショウウオ．改訂レッドリスト付属説明資料 爬虫類・両生類，pp. 13．環境省自然環境局野生生物課，東京．
- 松井正文，2021．セトウチサンショウウオ．日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 21．サンライズ出版，彦根．
- Matsui, M., K. Nishikawa, S. Tanabe, and Y. Misawa, 2001. Systematic status of *Hynobius tokyoensis* (Amphibia: Urodela) from Aichi Prefecture, Japan: A biochemical survey. Comp. Bioch. Physiol. B., 130: 181–189.
- Matsui, M., K. Nishikawa, T. Utsunomiya, and S. Tanabe, 2006. Geographic allozyme variation in the Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Urodela). Biol. J. Linn. Soc., 89: 311–330.
- Matsui, M., H. Okawa, K. Nishikawa, G. Aoki, K. Eto, N. Yoshikawa, S. Tanabe, Y. Misawa, and A. Tominaga, 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. Curr. Herp., 38(1): 32-90.
- Matsuki, T. and M. Matsui, 2011. A skeletochronological study of breeding females in a population of Japanese clouded salamanders (*Hynobius nebulosus*). Zool. Sci., 28: 175–179.
- 大川博志・奥野隆史・宇都宮妙子．2019．西日本のカスミサンショウウオの 3 つの大きなグループ．爬虫両棲類学会報．2019(1): 9‐21.
- 田辺真吾・松井正文，1997．カスミサンショウウオ（京阪個体群）．日本水産資源保護協会（編），日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（IV），pp. 287‐291．日本水産資源保護協会，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius setouchi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius setouchi* is listed as VU under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Grassland, Farmland, Abandoned farmland, Wetland, Agricultural ditch, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Wetland development, Field preparation, Grassland development, Land development, Transportation infrastructure construction, Vehicle collision, Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Abandonment of management, Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Power plant construction, Inbreeding depression
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora. Prefectural Ordinance-Designated Species【Kyoto】.



執筆者:	田辺真吾（日本爬虫両棲類学会）・松井正文（京都大学）
Author:	Shingo Tanabe and Masafumi Matsui